

香港日本語教育フォーラム

Vol. 3 (2021 年 2 月)

発行：香港日本語教育研究会

目次

◆はじめに

P1

◆香港日本語教育セミナー
(2020 年) レポート

P2

◆図書案内 by 斎藤誠

P6

◆香港日本語教育研究会
イベント情報

P9

◆投稿の募集

・ 質問箱

◆編集後記

P10



はじめに

「香港日本語教育フォーラム」第3号をお届けいたします。本誌は香港日本語教育研究会の会報誌であると同時に、香港の日本語教育を支える皆様の交流の場として、皆様に愛される存在でありたいと思っております。本年もどうぞよろしくお願いいたします。2020年はオンライン授業が全面的に導入され、結果的に授業スタイルの大きな転換点となった年だったように感じます。2021年になってもこの状態が続いていますが、今後対面授業に戻ることにしても、これまでの「当たり前」だったクラスのスタイルとは違い、他者との距離を取りながらの授業になるのでしょうか。さて、本号では、2020年12月12・13日に実施された「香港日本語教育セミナー」を特集します。「eラーニングの組み入れ」というタイムリーなテーマで、オンライン開催により世界中21の国・地域から、1日目約140名、2日目約100名のご参加を頂きました。本号では、参加された会員のレポートを掲載しました。セミナーの様子が伝われば幸いです。なお、動画と資料は以下のURLにて公開していますので、ご参照ください。

<https://www.japanese-edu.org.hk/jp/activities/seminar/2020/Sakura2020.html>

今後とも会員の皆様のご支援とご協力をお願い致します。



【特集】

香港日本語教育研究会 香港日本語教育セミナー
「日本語教学における e ラーニングの組み入れ」

2020 年 12 月 12・13 日（オンライン開催）

企画は 2018 年から始まりました。その頃には、授業が全面オンラインになるとは想像できず、ただ香港の ICT 環境、e ラーニングをさらに日本語教育に活用するためのヒントを探る、というコンセプトで、2020 年 3 月に実施予定でしたが、1 月下旬に香港においても新型コロナウイルスの感染が確認され、教育機関が閉鎖されたことで、本セミナーも延期となりました。その後、日程調整を経て 12 月にようやくオンライン形式で実施できることとなりました。ご調整くださった関係各位に心より御礼申し上げます。

【講演】2020 年 12 月 12 日（土）午後 2 時～6 時（香港時間）

講師①：加藤 由香里 先生（東京都立大学 国際センター・教授）

演題：e ラーニングを活用した日本語教育：Instructional Design に基づく学習デザイン

講師②：保坂 敏子 先生（日本大学大学院 総合社会情報研究科・教授）

演題：遠隔教育による日本語教育－効果的なオンライン授業を探る－

【ワークショップ】2020 年 12 月 13 日（日）午後 1 時～5 時 30 分（香港時間）

講師①：加藤 由香里 先生（東京都立大学 国際センター・教授）

演題：e ラーニング活用のメリット・デメリット

講師②：保坂 敏子 先生（日本大学大学院 総合社会情報研究科・教授）

演題：アクティブラーニングのための反転授業デザイン

本特集では、会員参加者の中から、振り返りの感想を寄せて頂きました。生の声から、様子が伝われば幸いです。



東京都立大学の加藤由香里先生、日本大学大学院の保坂敏子先生による講演に参加させていただきました。加藤先生のご講演では実際にオンラインでの授業を行っている教員にとって有難い実践的な内容で、実際的なオンライン授業での授業設計の方法や注意点、また学習者のモチベーションを上げるために実例や関連領域の理論的枠組みをご提示くださいました。保坂先生のご講演ではオンライン授業や e-learning など、この授業形態の歴史的な変遷から名称の使われ方な

ど丁寧に紹介してくださいました。特に教員が授業を考える上で感覚・経験的に判断していること等を理論的に解説して下さったことが印象に残っています。対面での授業の代替手段としてのオンライン授業ではなく、オンラインだからこそできる授業をするという視点は非常に重要だと感じました。

確かに、代替手段としてのオンライン授業では、対面及びオンライン授業のそれぞれの特徴を考えず、対面授業での内容や活動を強引にオンライン授業で行おうとしていたように思います。また、この視点は逆説的に対面授業でしかできないことがあることを暗示しており、このことはオンライン授業から対面授業に戻った時に教員が痛感させられることなのではないでしょうか。オンライン授業について体系的に学ぶことができただけでなく、これまでの自分のオンライン授業の振り返り、そして今後の展望について考える機会をいただきました。

小玉博昭（香港大学）

コロナがなかなか収束できないこのご時世の中、e ラーニングで教育を実施するのは必要になってきた。日本語の教師を目指す自分もこの流れを追っていくしかない。だから、この二日間のセミナーとワークショップは丁度いいタイミングだと思って、興味深く臨んだ。

初日の講演に、お二人の先生も「ARCS モデル」についてお話された。これは、教える側としての私にはとても良いリマインドだ。講義中、加藤先生から「今まで受けた授業の中で最も興味深く、やる気になった授業を思い浮かべてください。」と言われた時、自分が好きな先生をすぐに思い出せた。やはり学生の興味を促し、教えようとした知識を学生の身近いことと結び付け、学生を考えさせたタイプの先生だった。自分が尊敬している先生の特徴は、まさに ARCS モデルが強調する重点と合致しているのに気がついた。

保坂先生の講演（「遠隔教育による日本語教育」）では、オンライン授業が新型コロナウイルス感染の中、香港ではオンライン授業の普及率が高いという話があった。日本の方は「香港がなぜ早くオンラインに移行できたのか？」という質疑があった。このきっかけで各地の参加者から意見交換で盛り上がっていた。私は、香港が話題になったのもびっくりしたし、オンライン授業がどこでも普及しているわけではないことにもびっくりした。意外と他の国のことも知れてよかった。

二日目のワークショップでは保坂先生の部分（『ぼっちゃ』を使って反転授業実施する）は、自分はなかなかいいアイデアが浮かばなかったが、同じグループの他の先生方が動画を使って、学生を好きなスポーツのルールについて説明させるという課題につなげた。とてもすばらしいと

思って、いい刺激を受けた。一方、大変感じたのはうまく反転授業を実施するには、先生のリーダーシップや創造力や学生の能力への理解なども必要だ。自分がもっと頑張らなきゃと思う。

また、加藤先生のワークショップ（「e ラーニングの課題と解決策」）では、香港のほか、イタリア、日本、北京からの先生たちと同じグループだった。皆場所が離れても、抱えている課題が近いのに気がついた。たとえば、「漢字をどう漢字圏以外の学生に教えるか」「カタカナは非漢字圏の学生にはすぐに身に着いたか」などのテーマで情報交換や議論をした。

この二日間深く感じたのは、日本語教育は結局のところ教育だということだ。日本語教育も最新の教育トレンドに応じてどんどん革新しているようだ。なお、加藤先生の講演の冒頭に出た「教師の役割：学習と教授」の説明は、今受講している「集中日本語教師研修」の内容にもエコーしているのでとても響いている。最後に、二日間のセミナーおよびワークショップは日本語教育だけではなく、文化交流もできてとてもよかったと思う。

Gladys Lee

今回の日本語教育セミナーに参加させていただき、現在行っている授業はどのような理念、モデルに基づいて行われていたのか、そして、それらを実現するための授業設計ができていたのかを振り返るよい機会となりました。

遠隔授業開始から 1 年以上が経過しましたが、「教師が『教えよう』としていることと実際に学生が『学んでいる』ことは違う（沼野一男、鈴木 2002 より引用）」ということは、対面授業をしていた時よりも強く感じていたことです。

今回の講演会とワークショップに参加させていただいたことで、自己の授業の問題点が明白となり、改善へのアイデアをいただけたことが大きな収穫です。特に以下の二点については実際に実践してみたいと考えております。

- 1) ARCS モデルに基づいた中上級日本語学習者の作文授業
- 2) 反転授業を用いた初中級学習者の日本文化・歴史の授業

また、ワークショップでは世界各国からご参加なさっていた先生方と意見交換ができたこと、そして各国の日本語教育事情に触れられたことも大変励みとなりました。これもオンラインセミナーの一つの利点だと思います。実は遠隔授業も同様で、実際に教室で会うことはできませんが、様々なツールを通して、学習者との距離はこれまでよりもずっと近くなっているように感じています。

今後も日本語教育を取り巻く環境は大きく変化していくでしょう。その変化に柔軟に対応できる教師でありたいとセミナーに参加して強く感じました。セミナー実施にご尽力くださった皆様に心より感謝申し上げます。

飯田由美（香港中文大学専業進修学院）

2020 年 12 月 12～13 日に開催されたオンライン日本語教育セミナーに参加した。本来であれば 3 月に日本から講師をお招きして香港の会場で開催される予定であったが、新型コロナの影響でこの時期まで延期となり、オンラインでのセミナーになった。ただ、e ラーニングがテーマのセミナーは、ほとんどの参加者がオンライン授業を取り入れざるをえなかったこの 1 年を振り返ると実にタイムリーであったと思う。また実際に非常に有益な二日間であった。

初日の加藤先生、保坂先生のご講演では、自分がこれまで 1 年近く経験してきたオンライン授業を振り返るいい機会となり、また今後の教室活動デザインの面でも非常に参考になった。

ARCS モデルに基づいた授業構成など、これまで何となくしか意識はしていなかったことを、具体的に、明確に意識するきっかけとなり、同期双方向型の授業を如何に効率よく効果的に進めるかも再考することができたように思う。

2 日目のワークショップでは、前後半それぞれにおいてグループワークで他の参加者と意見を交換しながら反転授業をデザインしたり、授業で直面している問題解決のためにどのように e ラーニングを取り入れられるかを検討したりした。グループワークではメンバーやメンターと情報交換をすることもでき、実りの多い時間になった。

会場に集まっていたセミナーができなかったのは残念であったが、その反面オンラインだからこそ他地域からの参加者とも交わることができたという点もあり、得られることも大きかった。香港の大学でも当面はオンライン授業が続くと考えられる現在、これからの授業にすぐに活かせる学びがあったことは、ほとんどの参加者が実感したことではないかと思う。そしておそらくコロナ後の教育現場においても、e ラーニングの関わり方が以前に増して重要になってくると考えられることから、今回の経験をもとに自分の授業のあり方をしっかり考えていきたい。

村上仁（UOW カレッジ香港）

（順不同・敬称略）

日本語教育 図書教材案内 by 斎藤 誠

(国際交流基金派遣日本語専門家)



香港・マカオの日本語教育に役立ちそうな図書情報をご紹介します。
(各項目の QR コードは出版元の紹介ページへのリンクです)

1. リンガフランカとしての日本語

他言語・多文化共生のために日本語教育を再考する

監修：梁安玉 編著：青山玲二郎、明石智子、李楚成

発行：明石書店 2020 年

<https://www.akashi.co.jp/book/b525031.html>



日本語教育を取り巻く環境が国内外で多言語化している。「リンガフランカ（共通言語）としての日本語」という概念を導入し、非母語話者と母語話者がともに日本語を話し学ぶことが日本語の多様化、そして多文化共生にどう結びつくのかを考察する。（出版元 HP より）

2. 基本語力アップ！初級から学ぶ日本語コロケーション

著者：恵谷容子、飯島美知子

発行：くろしお出版 2020 年

https://www.9640.jp/book_view/?841



日常で役に立つ基本的・実用的なコロケーション（連語）を学べる教材。「お酒」→「お酒に酔う」「お酒に強い」のように、名詞を中心にしたグループ図でイメージを作り、例文と確認問題で表現を身につける。日本語能力試験（N5-N3 程度）の勉強にも。英語・中国語・ベトナム語訳付き（出版元 HP より）

3. 現場に役立つ日本語教育研究 6 語から始まる教材作り

著者：岩田一成（編）

発行：くろしお出版 2018 年

https://www.9640.jp/book_view/?781



コミュニケーション場面において、単語が一つ言えることで意図が相手に伝わるなんてことはよくあるのではないかと考えている。本書は、「語彙を中心にして教材を作ってみたらどうなるか」という共通課題で取り組んだ論文集である。本書で伝えたいメッセージは、「語彙は文法導入のおまけではない」ということ。（「まえがき」より）（出版元 HP より）

4. 自動詞と他動詞の教え方を考える

著者：江田すみれ、堀恵子（編）

発行：くろしお出版 2019 年

https://www.9640.jp/book_view/?838



前書『習ったはずなのに使えない文法』（2017 年）に引き続き、現場の教師へおくる 8 本の論文を収録。

■「はじめに」より

自動詞・他動詞に関しては長い研究の歴史があり、多くの知見が発表されている。本書は第二言語習得、日本語学、対照研究、コーパス研究などの各分野の研究者がそれぞれの視点から考察・報告したものと、授業実践に関するものから成っている。（出版元 HP より）

5. 発話の権利

著者：定延利之（編）

発行：ひつじ書房 2020 年

<http://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-89476-983-0.htm>



車が動かないのは、運転手がペダルを踏み間違えているからである。それを見つければ車内の誰でも「あ、ブレーキ踏んでる！」と言える。だが、「あ、ブレーキ踏んでた！」は基本的に運転手しか言えない。この運転手の「特権性」はどこから、どのように生じるのか？ 語用論、会話分析、人類学、動物行動学の第一線の研究者たちの「答」がここにある。（出版元 HP より）

6. ビジネスコミュニケーションのためのケース学習：

職場のダイバーシティで学び合う【教材編 2】

著者：近藤彩・金孝卿・池田玲子

発行：ココ出版 2019 年

<https://cocopb.com/books/978-4-86676-018-6/>



「ビジネス日本語」の教え方は、依然としてテキストの会話と語彙を教え、暗記させるという方法が主流です。しかし、そのような教え方で、本当に「仕事に役立つ日本語」を学ぶことができるのでしょうか。本シリーズは、日本語会話の表現や文型に着目するのではなく、仕事の現場で必要とされる能力（問題発見解決能力や課題達成能力、異文化調整能力）の育成を可能にする「ケース学習」を提案しています。「ケース学習」は、現実起きた事例（ケース）の解決策を、学習者同士で議論しながら導き出していくもので、ハーバードビジネススクールで使用されている「ケースメソッド」を援用して開発されました。

日本語の習得そのものではなく、ビジネスの現場で起きる問題を解決し、課題を達成できる能力、そして、異なる考え方を持つ人とも人間関係を損ねることなく仕事を進めていける能力を育てることを目指した教材。巻末に英語訳を収録しているため英語を利用したケース学習も可能です。

* 本書のサポートページでは、韓国語訳付き、中国語訳付きの語彙リストを無料ダウンロードできます。（英語訳は教材に収録しています）

サポートページ

<https://www.cocopb.com/coco/casemethod.html>

（出版元 HP より）

* 3 月 6・7 日の「香港日本語教育セミナー」の講師は、本著の著者でいらっしゃる近藤先生、金先生をお迎えします。ぜひご参加下さい！この「ケース学習」シリーズは【教材編】【解説編】があります。ご興味のある方は「解説編」もお手に取ってご覧ください。（斎藤）

※2018 年までの「図書教材案内」のバックナンバーは香港日本語教育研究会のウェブサイトでご覧いただけます。

<https://www.japanese-edu.org.hk/jp/news/library.html>

香港日本語教育研究会カレンダー (2021 年冬春)

※2021 年 1 月末現在。

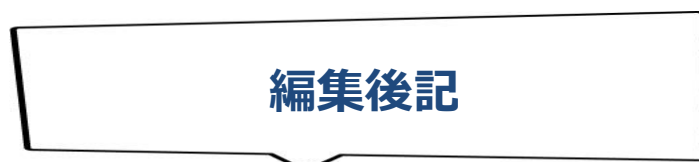
最新の情報は以下の URL にてご確認ください。

<https://www.japanese-edu.org.hk/jp/news/activities.html>

日時	名称・会場・詳細等
1/20 (水) pm2:00-5:00 1/23 (土) pm2:00-5:00	日本語教育オンライン・ミニワークショップ 「いろいろ 入門編」を見てみよう オンライン開催 (実施済)
3/6 (土) pm2:00-5:30 3/7 (日) pm1:00-5:30	香港日本語教育セミナー 「日本語ビジネスコミュニケーション能力の育成と向上 －理論と実践－」 オンライン開催 講師：近藤彩先生 (麗澤大学・教授) 金孝卿先生 (早稲田大学・准教授) 詳細、申込方法は以下の URL をご確認ください。 https://www.japanese-edu.org.hk/jp/activities/seminar/2021/Sakura2021.html 申込締切：2 月 19 日 (金)
4/24 (土)	第 16 回香港小中高生日本語スピーチコンテスト https://www.japanese-edu.org.hk/jp/activities/speech/2021/details.html ※ビデオ審査となります。 【部門】 ①小学生 暗唱の部 (詩の朗読) ②中学生 暗唱の部 (詩の朗読) ③中学生 朗読劇の部 (既定のスク립トあり) ④中学生 スピーチの部 応募締切：2 月 19 日 (金) pm5:00



日々の授業、教材などのお悩み、相談など、日本語教育専門家に聞いてみたいことを募集します。小さなお悩みも大歓迎です。あて先：sojlehongkong@gmail.com



12 月の香港日本語教育セミナーで講師のお 2 人が語られた内容は示唆に富み、これからの指針になる気がします。個人的にはソーシャルプレゼンスの議論に興味を持ちました。オンライン授業や SNS でのテキストだけでのやり取りでは、なんだか相手が冷たいとか、文面から感情が読み取れず、返答に困ったり、自分がどう見られているかドキドキしたりした経験、ありませんか？

本号を読んでの皆様からのご意見、ご感想をお待ちしております。（斎藤）

香港日本語教育フォーラム

第 3 号 (2021 年 2 月発行)

発行：香港日本語教育研究会 香港日本語教育フォーラム編集委員会

編集委員：斎藤誠（編集委員長） 梁安玉 村上仁 陳鴻輝

<https://www.japanese-edu.org.hk/>

[バックナンバー] 以下のアドレス内「ニュースレター」タブをクリックして下さい。

<https://www.japanese-edu.org.hk/jp/publish/>
